

東京女子体育短期大学 保健体育学科 ディプロマポリシー・ルーブリック

ディプロマポリシー		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	観点	
〔人間形成・知識・技能・理解力・指導力〕	DP1	豊かな社会性と人間性を支える広い教養を身につけている。	・多様な知識から高い教養を身につけ、それらを基にした 他者理解や共感性 によって、社会の一員としての 責任感や連帯感 を持っている (赤4)	・多様な知識から教養を身につけ、それらを基にした 他者理解や共感性 によって、社会の一員としての 責任感や連帯感 を持っている (赤3)	・知識と教養を身につけ、 他者への共感性 によって、社会の一員としての 責任感や連帯感 を持っている (赤2)	・知識と教養を身につけ、 他者への共感性 によって、社会に順応することができる。 (赤1)	DP1において、〔人間形成・知識・技能・理解力・指導力〕では特に「人間形成」と「知識」を重視する。さらにそれらの中でも「人間形成」を中心とした評価を行う。したがってこのDP1では、「他者に対する在り方（他者理解と共感性）」、「社会人としての自覚（世界における自分の立ち位置の理解）」という観点を軸とする。
	DP2	保健体育の内容を理解し実践できる能力を有している。	・保健体育における 専門的な知識と技能を高度に理解し 、それをもって体育やスポーツ、健康の保持、増進等の諸問題の 解決 に向けて、 活用 することができる (赤4)	・保健体育における 専門的な知識と技能を十分に理解し 、それをもって体育やスポーツ、健康の保持、増進等の諸問題に、 活用 することができる (赤3)	・保健体育における一般的な知識と技能を 理解し 、それをもって体育やスポーツ、健康の保持、増進等の諸問題に 活用 することができる (赤2)	・保健体育における一般的な知識と技能を 理解している (赤1)	DP2において、〔人間形成・知識・技能・理解力・指導力〕では特に「知識」と「技能」、「理解力」を重視する。さらにそれらの中でも「理解力」を中心とした評価を行う。したがって、「専門性（保健体育の深い理解）」、「理解の活用（保健体育的な知識と技術による問題解決）」という観点を軸とする。
	DP3	専門分野にとどまらず、様々な領域に柔軟に対応し、指導できる力を有している。	・保健体育に対する 理解を活用 することで、様々な領域へ 柔軟に対応し 、 問題解決 へと導く 指導力を十分に持っている (赤4)	・保健体育に対する 理解を活用 することで、様々な領域へ 柔軟に対応する指導力を十分に持っている (赤3)	・保健体育に対する 理解を活用 することで、様々な領域へ 対応する指導力を持っている (赤2)	・保健体育の理解に基づいた 指導力を持っている (赤1)	DP3において、〔人間形成・知識・技能・理解力・指導力〕では特に「理解力」と「指導力」を重視する。さらにそれらの中でも「指導力」を中心とした評価を行う。したがって、「応用力と柔軟性（他領域を跨ぐ本質の理解）」、「問題解決のためのリーダーシップ（保健体育の指導方法の援用）」という観点を軸とする。
〔実践的・判断力・表現力〕	DP4	自ら設定した課題について、専門領域から分析・考察することができる。	・自らの課題を分析、考察するために、保健体育的な 知識と技能を高度に用い 、それに基づく 論理的な思考と判断 をして、 課題解決 に向けて 実践的に遂行 することができる (赤4)	・自らの課題を分析、考察するために、保健体育的な 知識と技能を用い 、それに基づく 論理的な思考と判断 をして、 実践的に遂行 することができる (赤3)	・自らの課題を分析、考察するために、保健体育的な 知識と技能を用い 、それに基づく 論理的な思考と判断 ができる (赤2)	・自らの課題を分析、考察するために、保健体育的に 思考 することができる (赤1)	DP4において、〔実践的に必要な思考力・判断力・表現力〕では特に「思考力」と「判断力」を重視する。さらにそれらの中でも「思考力」を中心とした評価を行う。したがって、「専門的な思考（知識と技能の構造的な連関）」、「論理性を持った現実的な判断（実践における決断）」※思考においても行為においても」という観点を軸とする。
	DP5	多様な人々の意見を聴き、理解した上で自分の考えを表現し、的確に伝えることができる。	・多様性を受容し、自分とは 異なる意見への配慮 の上で、他者を納得させ得る 論理的な説明力と表現力（プレゼンテーション力） を身につけ、それをレポートや論文、作品、発表等に 的確に反映 することができる (赤4)	・多様性を受容し、他者を納得させ得る 論理的な説明力と表現力（プレゼンテーション力） を身につけ、それをレポートや論文、作品、発表等に 反映 することができる (赤3)	・多様性を受容し、他者を納得させ得る 論理的な説明力と表現力（プレゼンテーション力） を身につけ、レポートや論文、作品、発表等を作成することができる (赤2)	・多様性を受容し、他者を納得させ得る 表現力（プレゼンテーション力） を身につけ、レポートや論文、作品、発表等を作成することができる (赤1)	DP5において、〔実践的に必要な思考力・判断力・表現力〕では特に「思考力」と「表現力」を重視する。さらにそれらの中でも「表現力」を中心とした評価を行う。したがって、「諸前提の確認（論理的な展開の準備）」、「他者を意識した表現（コミュニケーション力とプレゼンテーション力）」という観点を軸とする。
〔社会との関わり・関心・意欲〕	DP6	社会の変化に伴う諸問題を理解し、探究心を持って積極的に解決することができる。	・社会の変化に 素早く順応 し、それに伴って生じる諸問題を解決するための 情報や手段を探究する態度 を持ち、 リーダーとして、積極的に関与していく姿勢 を身につけている (赤4)	・社会の変化に 順応 し、それに伴って生じる諸問題を解決するための 情報や手段を探究する態度 を持ち、 積極的に関与していく姿勢 を身につけている (赤3)	・社会の変化に伴って生じる諸問題を解決するための 情報や手段を探究する態度 を持ち、 積極的に関与していく姿勢 を身につけている (赤2)	・社会の変化に伴って生じる諸問題を解決するための 情報や手段を探究する態度 を持ち、関与していく姿勢を身につけている (赤1)	DP6において、〔社会との関わり・関心・意欲〕では特に「社会との関わり」と「関心」を重視する。さらにそれらの中でも「関心」を中心とした評価を行う。したがって、「社会への志向（興味関心）」、「社会における主体性（情報収集力とその実行）」という観点を軸とする。
	DP7	保健体育およびスポーツの知を生かし、社会の発展に貢献できる。	・体育やスポーツ、健康の保持、増進等に関する 知を社会に還元 して 積極的に貢献 しようとする意志を持ち、自己と他者の 心身の健康維持 を目指し、 スポーツ振興の主導的な実践 をすることができる (赤4)	・体育やスポーツ、健康の保持、増進等に関する 知を社会に還元 して 積極的に貢献 しようとする意志を持ち、 健康維持とスポーツ振興の実践 をすることができる (赤3)	・体育やスポーツ、健康の保持、増進等に関する 知を社会に還元 して 積極的に貢献 しようとする意志を持っている (赤2)	・体育やスポーツ、健康の保持、増進等を通じて 社会に貢献 しようとする意志を持っている (赤1)	DP7において、〔社会との関わり・関心・意欲〕では特に「社会との関わり」と「意欲」を重視する。さらにそれらの中でも「意欲」を中心とした評価を行う。したがって、「社会貢献（学びの還元）」、「学びの実践（保健体育的な知の活用）」という観点を軸とする。

※括弧内の数字は評価ポイントの数

※DP7にディプロマに保健に関する文言はないが、学科の性質から関係する文言を加えた。これによって、栄養学、生理学、衛生学などに関する科目をDP7に移すことも可能になるかと思われる。